



第7話 箭山太郎

大昔、八面山に数千年を生きたという老夫婦が住んでいた。二人の間に箭山太郎という一人の息子があつた。老夫婦はこの太郎に早く嫁をもらい、自分たちの死後、この山を守ってもらいたいと願っていた。太郎は身長一丈（3尺）余りあつた。太郎は狩をよくした。ある日、狩に出たが、その日に限つて兎一匹取れなかつた。歩きまわっている内に佐知の川原まで来ると、水浴びしている一人の女の姿を発見した。その美しさは太郎の心を射た。嫁にもらうならこの女だという衝動にかられ、女の前に跳び出して行つた。女はびっくりして佐知の集落に逃げ込んだ。

その夜、太郎は髪をとき、ひげを剃り、夜の更けるのを待ち、箭山を下りて佐知に向かつた。女の住居を見つけた太郎は、戸のすき間から眺めると、女が静かに眠っているのを見た。太郎は高鳴る胸を意識しながら寝顔を見守っていたが、やがて荒々しく戸を引き開けて中に入り、驚く女を小脇に抱えて箭山へ帰って行つた。こうした略奪結婚によって、太郎は佐知姫と結ばれ、両親の死後も二人は力をあわせて山を守つたという。